

令和5年度 花園第三保育室 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の3分の1が短時間の非常勤のせいか、自己評価になると「あまりできていない」とする人数が昨年度まで増加傾向にあったが、やや改善された。</li> </ul>
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模保育事業所のため、この項目は割愛</li> </ul>
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。</li> </ul>
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い。</li> <li>・情報の発信と受信、自園の苦情解決システムについて保護者への説明等「あまりできていない」と評価をする職員が一定数存在。対応が必要と思われる。</li> <li>・長期欠席児への対応も、該当児がいないためか「あまり」「まったく」できていないと答える職員が半数を超える。</li> </ul>
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。</li> <li>・小規模保育事業所のためか、小学校や高齢者施設との交流については職員の興味関心が薄いようである。3歳未満児であっても交流の方法はあると考えられるので、検討していきたい。</li> <li>・交流事業が未満児を対象としたものがなかったため、「まったくできていない」と評価をする職員もいる。</li> </ul>
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ねできているという評価が多い。</li> <li>・保育の専門知識以外への関心が例年より高い評価が多い傾向が続いている。</li> <li>・短時間、週5日未満勤務の職員が多いせいか、「あまり」と評価する職員が1～2人いる。</li> </ul>
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。</li> <li>・保育者からの働きかけに関しては、高評価であることから、乳幼児を主体とした保育についてさらに学びを深めていく必要があると思われる。</li> </ul>

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人が「言いづらかった」と回答。少人数施設の利点を生かし、言いやすい雰囲気づくりの形成に尽力する。</li> <li>・子育ての悩みについては保育者に相談できるとすべての家庭が回答。保育者の自己評価とも一致する。</li> </ul>
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」と全員が回答。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭は10割と高評価。</li> <li>・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価も10割で、園内の評価とも一致する。</li> </ul>
★環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価である。</li> <li>・保育者のコミュニケーションに関しては、4分の1が「どちらともいえない」と回答。言葉遣い、あいさつについても1人が「気になる」と回答するが、自由記述での回答がなく詳細が不明。</li> <li>・保育者側が自己満足に終わることなく、利用者との関わりをもう一度園内で見直すことが必要である。</li> </ul>